

「少し①病れたでしょう。これから仙台の修道院でゆっくり休みます。カナダへ②行く頃は、前のような大食らいに戻っていますよ。」

「仕事はうまくいっていますか。」

「.55N9T」

ルロイ修道士は右の親指を立てた。

「仕事がつまみかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割って、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルイのこの言葉を忘れないでください。」

道に立つてくれています。ドロアの言葉を忘れてしまったわ。」

冗談じゃないぞ、と思った。これでは、③遺言を聞くために会ったようなものではないか。そういえば、さっきの握手もなんだが変だった。「それ

は実に穏やかな握手だった。ルイ修道士は病人の手でも握るように感じた。「というように感じたが、実はルイ修道士が病人な

のではない。元園長は何かの病にかかり、この世の④いしまつに、こつやつて、かつての園児を訪ねて歩いているのではない。

「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか。」

先生は重い病氣にかかっているのでしょう、そして、これはお別れの儀式なのですねときこったが、⑤さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまった。

は、平凡な質問をしました。

それはもう、⑥「うやうや」といふときに決まっています。天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいっぱい

。さういふ。さういふ。

(...母...)

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、

「汽車が待つています。」

と言ひ、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきた。

「ロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つけたときにように、ルロイ修道士は⑦少し赤くなつて頭をかいた。

「天国へ行くのですから、その席へはあつませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいというが。死ねば、何もなかったのだ。おやみに寝たいところへ行くと思つよりも、にぎやかな天国へ行くと思つほう

がよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それから⑧川口修道士の手をとり、しっかりと握った。それでも足りずに、腕

を上下に激しく振った。

「痛くてすよ。」

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。

上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなった。まもなく一週忌である。わたしちに会って回っていた頃のルロイ修道士は、身体中が悪い腫瘍の巣になっていたそうだった。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは知らぬ間に、⑨両手の人さし指を交差させ、

。はらへたしきへてさ

- (1) 「わたし」が遺言のように思つたのは、ルロイのどの言葉からか。一文で書き抜きなさい。

(2) ルロイが病氣であると感じたのは、どのようなことからか。(1) 以外に二つ書きなさい。

傍 縛部 ④ 「いとまじい」とあるが、この言葉と同じ意味の言葉を文章の中から六字で採し、書き抜きなさい。

4 倭僞高麗^⑤一さすかにそ材にはにが材、材のはなせか 最も通ふたものを沙かひ、一選て 語窮て客スガとい

ウ、本当かどうか、自分でも自信がもてなかつたから。

傍 竊語⑥ (二)「や、てい、なとき」とはどのようなどときか 三十四字で採し 初めの三字を書き抜きたい (各語点

c 倭綴音節(ア)一少し赤くたいて置るかいた「のにはなせてすか」
痛受[いとおう]の「言を何、王三郎以二ナニヤリ

7 旁泉部⑧

傍線部⑧についてこのときの「わたし」の思いを「わたし」がルロイに語りかける口調で簡潔に書きなさい。

傍線部⑨「両手の人差し指を交差させ、せわしく打ちつけていた」ときの「わたし」の気持ちとして不適切なものを、次から

一 つ選び、記号で答えなさい。

ア、最後に別れてからの早すぎる死に、やるせなさがつくる気持ち。

イ、敬愛する先生を指言集で送り、心から冥福を祈る気持だ。

ウ、先生に何もできなかった自分が、怒りをぶつける気持ち。

二、先生を死に至らせた腫瘍に対する言いようのない悔しい気持ち。

【二】次の漢文を読んで後の問に答えなさい。

- 1 ①子曰はく、「学びて時に之を習ふ、②また説ばしからずや。朋遠方より来たるあり、③また楽しからずや。
[]、また④君子ならずや。」と。
- 2 子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、
以て師たるべし。」と。
- 3 子曰はく、「学びて思はざれば則ち⑤罔し。
思ひて学ばざれば則ち⑥殆し。」と。
- 4 子曰く、「之を知る者は、之を好む者に如かず。
之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」と。

- 1 傍線部①「子曰はく」について、次の各問いに答えなさい。
(1) 現代語訳しなさい。
(2) 「子」とは誰のことを指しているか漢字で書きなさい。
(3) この文章が書かれている書物を漢字で書きなさい。
- 2 傍線部②「また説ばしからずや。」を現代語訳したときの意味を次から一つ選び記号で答えなさい。
ア、どうしても嬉しいのだろうか。 イ、きつと嬉しくないにちがいない。
ウ、ちつとも嬉しいとは思えない。 エ、なんと嬉しいことではないか。
- 3 傍線部③の書き下し文を参考に、解答欄に返り点を書き入れなさい。
- 4 [1]の[]には 人不レシテ知ラ而 不レ愠ミの書き下し文が入る。書き下し文を書きなさい。
- 5 傍線部④「君子」とはどのような人が、書きなさい。
- 6 [2]について、この文から生まれた四字熟語を書きなさい。
- 7 [3]について、⑤「罔し」⑥「殆し」とはどのような意味か。適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア、自分だけの考えで独断に陥るので危険だ。 イ、先人が残した知識が、無駄になってしまう。
ウ、人の意見をうのみにし、だまされてしまう。 エ、物事の道理を明確につかむことができない。
- 8 [4]について、「子」が最も評価している者はどんな者が、[4]から書き抜きなさい。
- 9 [4]について、自分の意見や考えを次の条件に従って書きなさい。
条件1 段落は付けずに書くこと。
条件2 五十字以上七十字以内で書くこと。(解答欄の点線が五十字です)
条件3 自分の経験と結びつけて書くこと。

【三】次の各問いに答えなさい。

- 1 次の傍線部の助動詞と意味・用法が同じものを次から選び、記号で答えなさい。
・あの日のことが思い出される。
ア、三十分で行かれる。 イ、店内に音楽が流れる。 ウ、病気の妹のことが気づかれる。 エ、先生に指名される。
- 2 次の文の文節と単語の数をそれぞれ漢数字で書きなさい。
・急に大きな声で呼び止められた。
- 3 次の傍線部の品詞名を書きなさい。
①この本は人気です。②遠い日の記憶が鮮やかに浮かんでくる。
- 4 次の傍線部が修飾している一文節を、書き抜きなさい。
①そう言われてみると、たしかに友人の表情は以前と比べて穏やかに見える。
②メールなどで、すぐに明確な表情をもつ絵文字に頼るようになったのも、私たちの意識の変化によるものかもしれません。
- 5 次の傍線部の敬語は間違って使われている。正しい表現に直して書きなさい。
①先生、明日は母がいらつしやいます。 ②お客様がお菓子を頂く。
- 6 次の()に漢字二字を入れて四字熟語を完成させなさい。・喜怒()
- 7 次のうち、慣用句の使い方が不適切なものを選び、記号で答えなさい。
ア、気が置けない人なので用心しよう。 イ、けんかしたことは水に流そう。
ウ、歩き回って足が痺になった。 エ、掃除の手を抜いて叱られた。
- 8 次の各語と熟語の組み立てが同じものを次から選び、記号で答えなさい。
①迷路 ア、温暖 イ、秀才 ウ、非常 エ、船出
②身体 ア、風雲 イ、起伏 ウ、永久 エ、握手

【四】次の傍線部の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字に直しなさい。ただし、送り仮名まで書くこと。

- ①山の頂を目指す ②公の場 ③五月雨の時季 ④なかなかの代物 ⑤人々が行き交う
⑥めんみつな計画 ⑦地震のせんもん家 ⑧森をさんざくする ⑨荷物をあずける ⑩特例をもつける

通常の文章ではたいてい不特定多数の読み手を想定して書く。だから、もちろん、*どんぐり眼で*おちよ、ぽくをした丸顔のぽちやぽちとし
た女の子などと、個別の読み手をイメージするわけにはいかない。とはいえ、読書層はのべりとした得体の知れないかまりとは違う。子供が大人
か、男性か女性か、学生か社会人が教員か職人が主婦か、その問題にどの程度の関心や知識のある人びとなのか、可能な範囲で読者対象をしばり
こみたい。どういう人が読むかによって、適切な表現はそれぞれ違ってくる。どのような人間が読むかという点を一切抜きにして、絶対すべれた文
章などというものはありえないからである。

読み手の立場に寄り添って書くようにと説くのは、おそらく『美文章作法書』というものの常道だろう。そういう当然のことができるのは、書き始める前に読者層のイメージが頭の中におおよそ方向づけられているからだ。もちろん、世の中には、物知りの人もいれば、物知らずもいる。関心のありかも人それぞれな違う。ぴたりと照準を合わせるのは至難の業だ。それでも、書くのは自分で、読むのは他人、その他人は自分とはまるで違う人間であるという当然きわまる事実を、きちんと認識して書く、その第一歩が肝心なのである。

子供の生まれた家に市長名で「お出産おめでとーございます」という祝いの手紙が来て、よく見ると宛名が赤ん坊になっていた、そんな笑ひ話みたいな実話があるらしい。「出産」したのは母親であって、子供は夢中で「誕生」したにすぎない。発信人としては、赤ん坊はまだ字を知らないから実際に読むのは母親だと気をまわすきぎで、①全体として「じまの含めない通信文」になったのかもしれない。もし一度でも、宛名の相手の身になって読み返すことがあったら、こういう間違いはきと避けられたはずなのだ。

この場合はまだ愛嬌といって済ませられそうな例だが、気づかずには相手を傷つけるケースもある。A「東京の人間に「下阪」と書かれたら大阪の人間はいい気持ちがないことだろう。大阪へ下るなどと、相手を見くだす態度が気に食わないはずだ。かつて千年以上も都だった京都、その地に生まれ育った人は、長年にわたって「京に上る」と言われてきただけに、東京へ行くという意味の「上京」という語に抵抗が強く、無意識のうちにその使用を避ける傾向があるようだ。（中略）

以前、「*都下、*小倉井市」と宛てたはがきが舞い込んだことがある。作家の永井龍男から届いた一通だったかもしれない。ほのかに文学的かおりが漂うせいか、「都下」という懐かしいことばから、*国木田独步や*徳富蘆花などの時代の*武蔵野のおもかげが目に見え、一瞬のんびりとした雰囲気を味わったような記憶がある。だが、これをもし、東京の中心街から遠い土地に住んでいることを気にしている人間が読んだら、ちよつと「ふくざつな気持ち」かもしれないと思つた。同じそのことばから、都心に住む人が近郊を「いなが」と見くだすまなざしを感じとらないとも限らない。次第で効果も逆効果もあるから微妙である。広く読まれる文章では相手も不特定だから、どういふ表現で誰が傷つくか、ますます油断がならない。要は他者への配慮であり、やさしさである。基本はそれに尽きるだろう。

(中村明「日本語の作法」より)

*どんぶり眼…丸くて愛らしい目。*おちよほ口…小さくかわいらしい口。

*文章作法書…ここでは文章を書く方法を著した書物。
*都下…東京都のうちで、二十三区を除いた市町村。

*小金井市(こがねいし)・・・東京都中部の地名。
*国木田独歩(くにきだつぽ)・・・作家。

*徳富蘆花(とくとみろか)・・・作家。
*武蔵野・・・(一)こゝでは埼玉県川越市から東京都府中市までの間に広がる地域。

- 傍線部①「全体としてつじつまの合わない」とありますが、その理由を次のようにまとめました。
に入る最も適切な語句を本文中から十字で書き抜きなさい。

本文中から十字で書き抜きなさい。

・「三」出産おめでとー(さいます)」という祝いの手紙が来て、
 いたのに、文章が母親に合わせて書かれていたから。

2 A にあてはまる接続詞を選び、記号で答えなさい。

ア、しかし イ、また ウ、そして エ、たとえは

3 B に入る語として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア、土地
イ、目的
ウ、相手
エ、意味

4 この文章について述べたものとして最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア、文章作法書の手順に従って全体を構成し、文章の書き方が適切に伝わるように表現している。

イ 最初に疑問を述べ、次に疑問の答えを裏付ける具体例を示し、説得力を増すように表現している。

ラ 穆斐の具体例とともに意見を繰り返して示し

二 間違ひを種樹官に修正する必要性を具体例に示す(各々)

「重抄綴音」「綴文」の文義語を書き加さし

c 波綴留「ふくぞう」において「ふく」という字を楷書に直して書いた。部首名を答えがきい

